

1. 遺跡名 さがみ縦貫道路関連遺跡
中依知遺跡
(なかえち)
2. 所在地 厚木市上依知地先
3. 時代 縄文時代、古墳時代、
奈良・平安時代、中世以降
4. 調査概要

本遺跡は相模川中流域の西側河岸段丘上に位置しています。調査は、さがみ縦貫道路建設に伴う事前調査として、平成13～15年度に行いました。

発掘調査では縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代から中近世の遺構・遺物が出土しました。

縄文時代では土坑が検出されています。また古墳時代では古墳8基・横穴墓4基が発見されました。古墳はいずれも円墳で、石室内からは鉄刀・鉄鏃・刀子(とうす)・耳環・管玉・ガラス玉・須恵器・土師器(はじき)・人骨など多量の遺物が出土しました。横穴墓からは須恵器・土師器・人骨が出土しています。奈良・平安時代では住居址や溝状遺構が見つかっています。中世以降では地下式坑12基・ムロ・土坑があり、地下式坑の一つからは約1万枚の埋蔵銭が出土しました。銭貨は中世の所産で、中国をはじめとする外国からの渡来銭です。



遺跡の位置



古墳(1号・2号墳)



古墳の石室(5号墳)



中世の埋蔵銭出土状況

